

⑫ 公開特許公報(A) 平1-247644

⑤ Int. Cl.⁴
E 04 D 13/10識別記号 庁内整理番号
A-7540-2E

④ 公開 平成1年(1989)10月3日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑭ 発明の名称 雪止め金具とその施工方法

⑮ 特 願 昭63-75588

⑯ 出 願 昭63(1988)3月29日

⑰ 発 明 者 三 木 一 巨 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

⑱ 出 願 人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地

⑲ 代 理 人 弁理士 竹元 敏丸 外2名

明 細 書

1 発明の名称

雪止め金具とその施工方法

2 特許請求の範囲

(1) 長尺の薄板の先端表面に雪止め用突部を、後端裏面にバネ性を有する係止片を中程に先付用の穴を有する雪止め金具。

(2) 請求項(1)記載の雪止め金具の後端を、部分的に重ね合せながら、ずらせて施工してある瓦の隙間に差し込んで、雪止め金具の下に位置する瓦の上端縁に、雪止め金具の係止片を係止させて成る雪止め金具の施工方法。

3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、雪積地域の屋根上に設置する雪止め金具とその施工方法に関するものであり、その利用分野としては金属加工分野、屋根施工分野及び住環境向上分野に汎く利用されるものである。

(従来の技術)

この種の雪止め金具の従来の例としては、例え

ば第3図に示すように長尺の薄板11の先端11a表面に三角状となった雪止め用突部12を形成するとともに、後端11bにはくぎ穴用の孔13を複数個設けてなるものが汎く知られたものであった。尚上記従来例の薄板11の材料としては強度がある金属板を用いるのが一般的である。

(発明が解決しようとする課題)

上記した従来の雪止め金具11を、実際に屋根上に取り付けるには、瓦を施工する際に、所定位置に釘をもって雪止め金具11の後端11bを屋根上に固定し、その上に瓦を載せて順次施工取付けていくのが汎く用いられていた施工方法であった。

このように従来の雪止め金具11を用いる場合、瓦の施工と同時に取付けていかねばならず、たいへん工数が掛るという問題点を有していた。

本発明は上記従来の雪止め金具11が有しているかかる欠点を悉く解消し、恒て新規性に溢れるとともに有用性に富んだ雪止め金具を汎く社会に提供し、もって斯界の益々の隆盛進展に寄与せんとするものである。

(課題を解決する為の手段)

本発明は長尺の薄板の先端表面に雪止め用突部を、後端裏面にバネ性を有する係止片を有する雪止め金具と、かかる雪止め金具を屋根上に取り付ける施工方法である。

(実施例)

以下、本発明の雪止め金具について第1図の実施例に基いて詳細に説明する。

本発明は20㎝乃至50㎝の長尺で、巾が3㎝乃至7㎝、厚みが0.3㎜乃至2.0㎜の薄板11の先端12表面に、三角形状の雪止め用突部13を、後端14裏面にバネ性を有する係止片15を有する雪止め金具16である。

本発明において薄板11はブリキ板、ステンレス板等の金属で作ることが望ましい。又先端12表面に設ける三角形状の雪止め用突部13は、別途作成して固定しても良いし、又は薄板11の一端を折り曲げて作り、折り曲げた端部分を薄板11の表面に溶接して固定しても良い。更に後端14裏面に設けるバネ性を有する係止片15は、薄板11の一端を折

上端縁18に引っ掛けて係止させて雪止め金具16を施工すれば良い。

(発明の効果)

本発明は上記の如く構成されており請求項11に記載した構成を有する雪止め金具は極めて簡便な構成であり、又請求項12に記載した構成を有する雪止め金具の施工方法は、瓦を施工したのちに、わずかの力でもって確実に、且つ釘等を用いることなく簡単に取付施工することが出来る効果を有している。更に穴を用いることによって、先付け施工を行うことも可能なものである。

4 図面の簡単な説明

第1図及び第2図は本発明に係る図面であり、第1図は雪止め金具の斜視図、第2図は雪止め金具の施工方法の要部斜視図、第3図は従来の雪止め金具の斜視図である。

1…薄板、2…先端、3…雪止め用突部、4…後端、5…係止片、6…雪止め用金具、7…瓦、8…穴、9…結線穴。

り曲げてくの字状に作れば良く、バネ性は金属で出来ている薄板11の特性によって付与される。図中18は穴であり、先付け施工を行う為に用いるものである。又図中19は雪止め金具16同志の連結を行う為に用いるものである。

(施工方法)

次に、本発明の雪止め金具の施工方法について第2図の実施例に基いて詳細に説明する。

まず屋根上に多数枚の瓦17171…を部分的に重なるように若干ずらして載置して施工したのち、重ね合せた瓦17と瓦17との間のわずかの隙間に、上述した雪止め金具16のバネ性を有する係止片15を付設した後端14を差し込む。その際に係止片15はバネ性に抗して薄板11の裏面に密着するようになるので、雪止め金具16の差し込みは若干の力を加えるだけで入り込ませることが出来る。このようにして雪止め金具16を押し込むと、下に位置する瓦17の上端縁18で、係止片15はバネ性によって拡張する。次いで該雪止め金具16を逆方向すなわち引き抜く方向に引っ張ると、係止片15は瓦17の

第3図



